



The Final Quarter Project

ファイナル・クォーター・プロジェクトについて

2009年3月14日

(社)日本アメリカンフットボール協会

The Final Quarter Projectとは?

- ◆ 1934年、日本にアメリカンフットボールが上陸してから今年で75周年
- ◆ 100年を一つの区切りと考えると、ちょうど「第3クォーターが終わり、いよいよ第4クォーターに突入する」タイミング
- ◆ アメリカンフットボールがより国内でメジャー化するために、アメリカンフットボール関係者が一丸となって進めていく、「これからのアメリカンフットボール」のためのプロジェクト「The Final Quarter project」



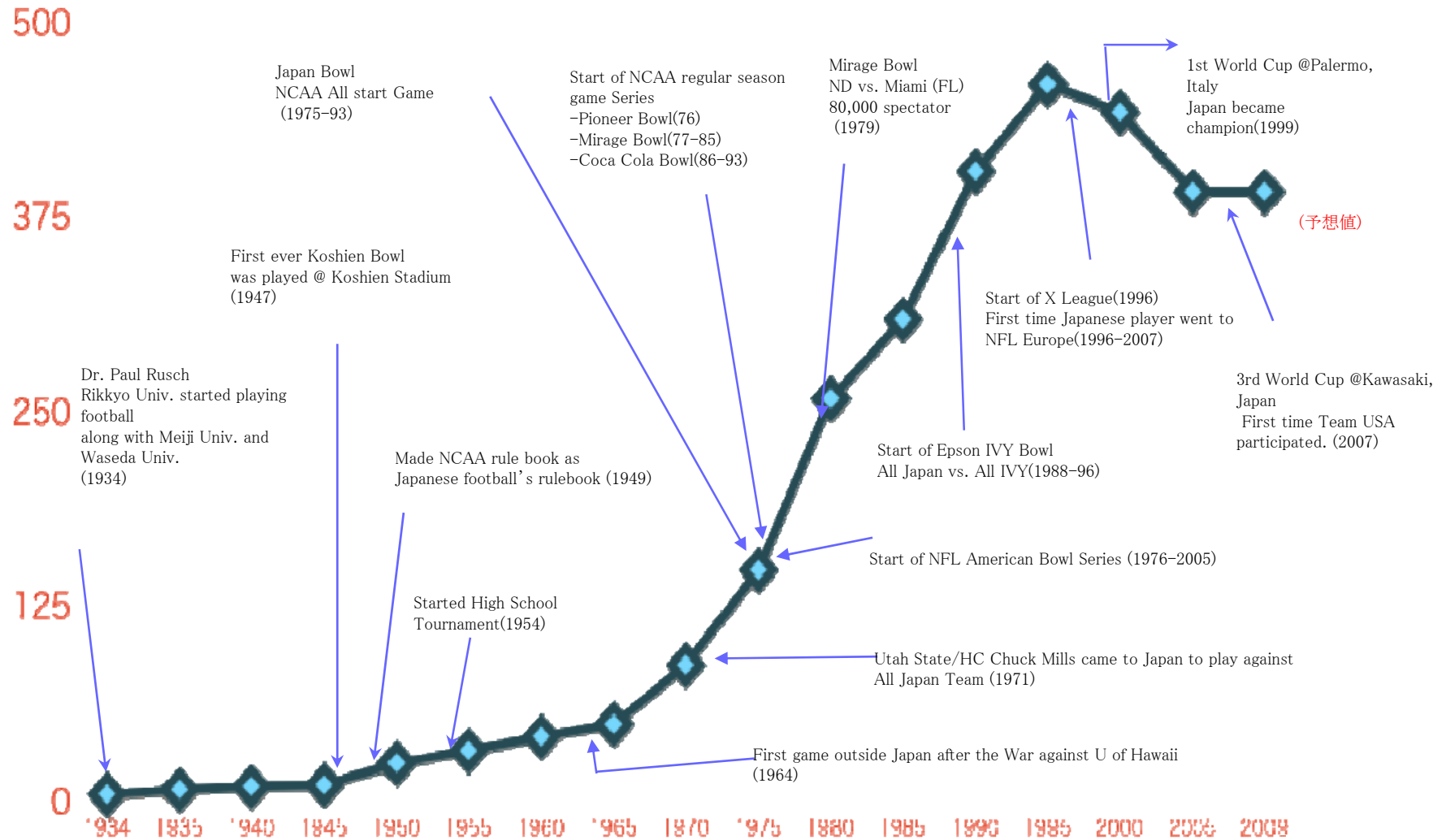
背景

- ◆ 2007年7月にワールドカップが日本で行われ、成功裡に終了し、人気拡大につながった
- ◆ 少子化の中でフットボール人口(大学・高校)は増加傾向であること(別紙1参照)
- ◆ フラッグフットボールが、2011年からの小学校新学習指導要領解説書に盛り込まれる(別紙2参照)



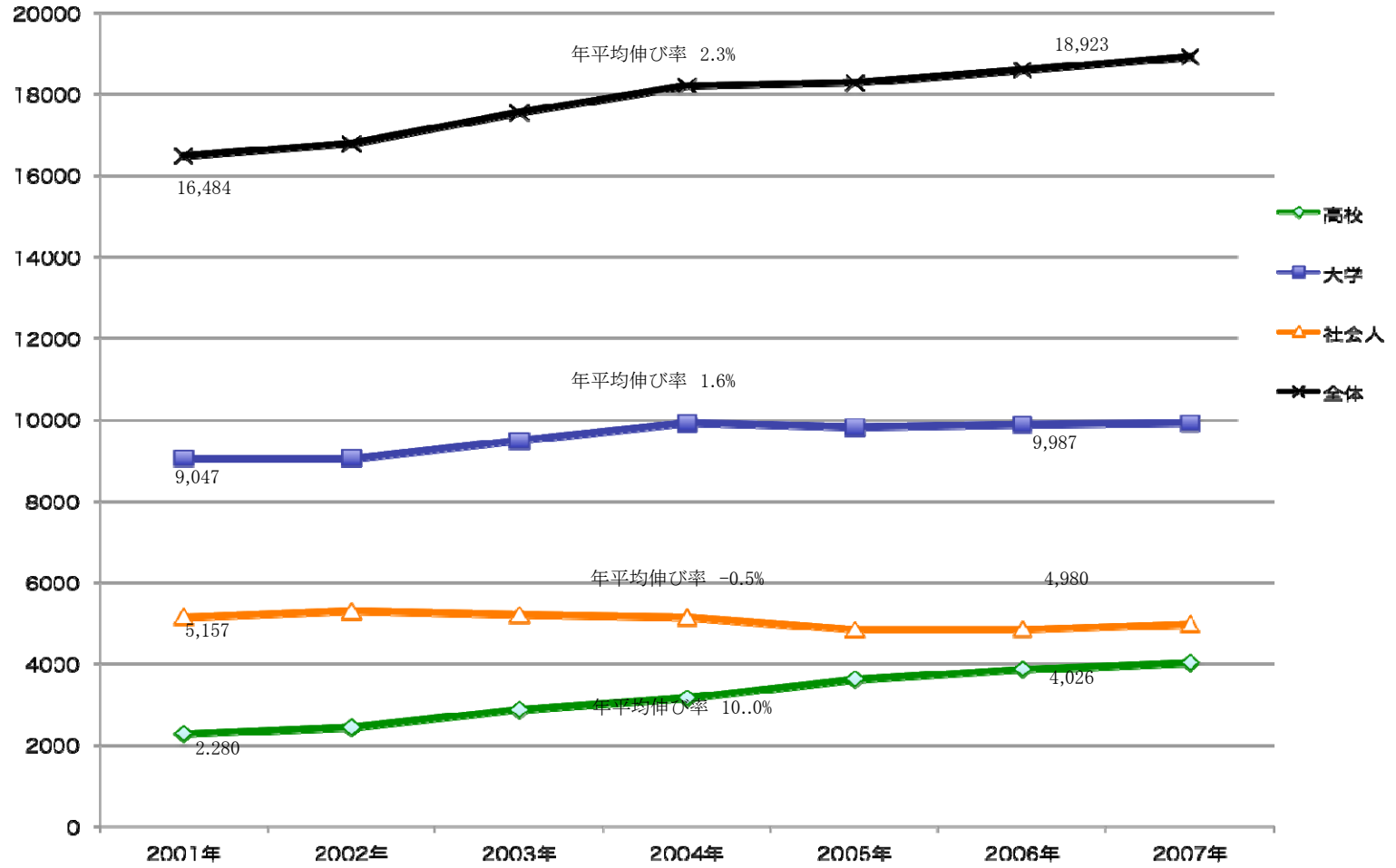
別紙1(1/2)

◆ アメリカンフットボールのチーム数推移



別紙2 (2/2)

日本アメリカンフットボール競技人口の推移



The Final Quarter Projectの目標

- ◆ キッズ・ユースフットボールを含めた競技人口の拡大
「(100周年を迎える)2034年に競技人口を現在の約5倍の100,000人にする」
- ◆ 国際化時代にふさわしい競技力の向上
「(100周年を迎える)2034年に日本代表(フル代表およびU—19とも)は世界一を争う」
- ◆ 今後ますます国際化する社会において多種多様なグローバルな人材の輩出



FQP スローガン

OPEN

より多くの人に親しみ易く、支持を得られる「開かれた」スポーツを目指します。

*O*utspread(競技人口の普及・拡大)

*P*ublic(一般の皆様により親しみ易く)

*E*ducation(キョウイク＝教育・競育・協育)

*N*ew Generation(ジュニア・ユース育成)



具体的施策案

1. キッズ・ユースフットボールリーグ・チームの立ち上げ支援
2. 指導者育成プログラムの実施
3. 日本代表チームほかの強化
4. エリート育成プログラムの実施
5. 試合環境(特に競技場)の環境整備
6. 安全指導の一層の推進
7. ファン拡大に向けた各種施策の実施
8. 審判関連の人材の育成
9. 上記を実施するための専任マネジメント体制の確立



※詳細は別紙3参照

2009年に実施する特別課題(1/2)

◆ 国際試合

1. ノートルダム・ジャパン・ボウル(別添4参照)
2. ジュニア世界選手権大会(別紙5参照)
3. グローバル・チャレンジ・ボウル(別添6参照)

◆ 75周年記念応援団の募集

＜JAFADダイヤモンド倶楽部(仮称)の設立＞

前頁に記載したようなイベントを遂行し、そのための体制を整えるためには、長期的な視点での財政基盤の強化が喫緊の課題である



◆ 殿堂入り表彰者の検討(検討委員会の開催)

2009年に実施する特別課題(2/2)

◆ その他

1. コーチズハンドブックの翻訳・製本
2. 安全指導推進のためのコンベンション開催
(2月28日及び3月14日開催予定)
3. キッズ・ユースリーグ設立に向けた準備
4. フラッグフットボールへの支援
5. ノートルダム大コーチズクリニックへの派遣
6. 協会ホームページの充実(運営含む)
7. 記録の整理(75周年史)の準備

